

## 9. 経験したことのない大災害に遭遇すると・・・

大きな自然災害に遭遇するのはそう多くはありませんが、不運にもこうむると相当な被害を受けます。そうなると、経験したことのない、あるいは想像を超えた大災害となります。仮に、過去の災害を知っていたとしても、実際の光景はまったく別物で、驚愕し狼狽することになります。また、過去の履歴を知っておくことは大変に重要なことで、そのような災害が起きていたことは、繰り返されることを示唆しています。そして、対象となるものが異なっていれば、当然被害の規模も変わることを改めて教えています。

自然災害の詳細な記録が残っているのはごく最近のもので、災害そのものは人間が暮らし始めたときから、あるいはそれ以前から発生しています。その証左は地形であったり、土地利用の歴史であったりするわけです。そのようなことを知ることで、土地の資質や災害の特性や発生頻度などを知ることが出来ますし、潜在しているリスクをある程度推測することも可能となります。さらに、溪流の特性や、斜面の安定度、河川の特性、河川地形から挙動までが過去の履歴を示唆してくれます。このような自然の成り立ちの痕跡は、その多くが自然災害と関係しており、繰り返されることを考えて、土地の利用・活用を考えないと同じような災害に遭遇することになります。

もちろん、自然の時計とわれわれ人間の生活時計は違いますので、発生確率ということで情報を得ることになります。何時起きるかがわからないのは、何時起きてもおかしくないことです。自然災害が起きると大きな犠牲は明白ですので、その被害の最小化をするための備えをすることが必要です。自分だけは大丈夫というわけにはいかないのです。

災害対応では、ある程度何が起きるのか、そのときにはどうするのかを事前に考えておくと、発生時に冷静な判断ができますし、自信を持って隣人、知人を安全に誘導できます。確かに、過去の同じような状況になることはなく、むしろ多様、多岐化しますが、基本形が出来ていれば修正して次の行動に移せる柔軟性が身につきます。

また、過去の災害記録を調べることも大変重要なことです。この場合には市町村の地域防災計画を参照し、そこから展開して検索を広げる手が有効です。加えて、土地分類図を調べて、災害にかかわるものの分布を調べることで相当なリスクが浮かび上がります。また、ハザードマップ的な情報も有効ですが、あまり細かく読むよりも大まかに見ながら、被害想定などに気を配りつつ危険性を把握することが肝要です。